リメンバー新聞

128号
2024年8月3日

編集・発行
リメンバー名古屋自死遺族の会
https://remember-nagoya.org/
remember_nagoya@yahoo.co.jp
FAX:050-3588-8097（変更）
郵便:〒612-8799
京都府京都市伏見区撞木町1148
伏見郵便局留　リメンバー名古屋

11月17日 「リメンバーin岡崎」を開催

今年度も、岡崎市において「わかちあいの会」を下記のように開催します。2010年度から毎年行い、今回で15回目となります。

日　時　2024年11月17日(日)
13:15－16:00（13:00受付開始）

場　所　岡崎げんき館 愛知県岡崎市若宮町２丁目１－１
名鉄東岡崎駅よりバス

内　容　「自死遺族の分かち合いの会」
対象：自死遺族の方限定

参加費　無料（愛知県地域自殺対策強化事業費補助金事業）

次回「ディアレスト」のご案内

家族ではないけれども大切な人を自死で亡くされた方を対象に、遺族会「ディアレスト（Dearest）」が開催されています。今回はオンライン(Zoom)開催となります。下記連絡先までお申し込みください。
日時： 2024年9月29日（日）14:00 - 15:30
対象： 家族以外の大切な人（恋人・婚約者・パートナー・親友・同僚・上司・部下・先輩・後輩・先生・生徒、など）を自死（自殺）で亡くされた方
連絡先： the.dearest1@gmail.com　http://dearest.heya.jp

「～こころの居場所～AICHI自死遺族支援室」のご案内

「自死遺族ミーティング」(分かち合いの会）を定期的に行っておられます。次回の日程等は、ホームページをご覧いただくか、下記までお問い合わせください。
連絡先：cocoroibasyo@yahoo.co.jp
ホームページ：http://cocoroibasyo.org/

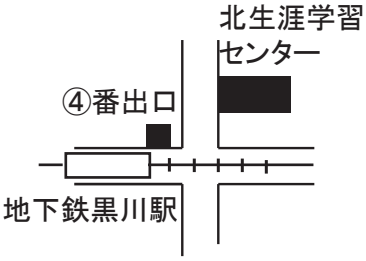
次回「いっぷく処」のご案内

「いのちに向き合う宗教者の会」による、「いっぷく処」（分かち合いの会）が、下記のように行われます。
日時： 2024年10月4日（金）14:00-17:00
　　2025年3月4日（火）14:00-17:00
場所：真宗大谷派 名古屋別院（東別院）
対象：自死遺族当事者
連絡先：info@inochi.in　　http://inochi.in/
　　真宗大谷派名古屋教区教化センター

遺族のための相談先（電話相談、面接相談、法的な相談など）が多くあります。詳しくはスタッフにお尋ねください。

次回の遺族会

第123回
8月4日(日)13:15から
名古屋北生涯学習センター
地下鉄名城線「黒川」下車
(4番出口)よりすぐ
参加費:500円



その次は･･･
第124回
10月を予定しています。
日程は、8月7日以降に決まります。

日程は、ホームページ、Twitter、または、電話案内でご確認いただけます。
●ホームページ
https://remember-nagoya.org/
●X(Twitter) アカウント
@remember_nagoya
●電話案内(録音でのご案内)
090-8544-9408

新聞郵送をご希望の方へ

1月～6月末までのお申し込み(前期)…1000円
7月～12月末までのお申し込み(後期)…500円
詳しくはスタッフまで

スタッフ募集

遺族会に参加したことがある方で、会の活動のお手伝いをいただける方募集しています。
詳しくはお問い合わせください。

追悼

2024年5月21日、リメンバー神戸の梁勝則（りゃんすんち）さんが亡くなられました。

梁さんは、リメンバー名古屋の黎明期を支えてくださった方なのですが、今は、梁さんのことをご存知ない方も多いと思われますので、今回のしんぶんでは、代表幹事Tがどのように梁さんと出会い、リメンバー名古屋がどのようにして生まれ、今に至っているのか、書いてみたいと思います。

普段は、死別直後の新規の方のことを思って紙面を構成しているため、会についての細かい長い文章はしんぶんには書かないのですが、今回は、長くなると思います。

まずは私自身のことから書きます。私は、24歳のときに父を亡くしました。父は家の中で灯油をかぶり、家ごと燃えて亡くなりました。家は借地に建っており、90坪ほどのその土地は、半分が地区の物で、もう半分には、地権者が38人居ました。毎年12月に、地代を、地権者の代表の方のところに現金で持参していました。地代は毎年、お米の相場価格によって決まっていました。その土地とは別に、道路を挟んで向かい側の駐車場を2台分、地権者の代表の方から1台当たり月700円で借りており、これも現金で支払っていました。いつの時代かと思われるかもしれませんが、それは父が死んだ1990年代後半の話です。

父が死んで数日後、駐車場代を支払いに行くと、私の家が借りていた駐車場は今まさに、地区の他の人が借りるところでした。「これからはうちが借りることになったから」と言われ、くつがえすことができませんでした。契約書などもなかったので、どうにもなりませんでした。

焼け跡は更地になり、そのスペースにも「駐車場として貸してくれ」という人たちが現れ、焼け跡がどんどん月ぎめ駐車場になっていきました。今思えば、その方々は、私たちを支援するつもりで、「駐車場として貸して」と申し出て、私たちにさりげなく現金を提供してくれていたのだと思いますが、疑心暗鬼になってしまったそのときの私にはわかりませんでした。隣家の方からは、「今度家を建てるときは、2メートルくらい離して建ててや、怖いから」と言われていました。隣家は、延焼させてしまっているのでそれはもう仕方がないわけですが、家を建てられるスペースがどんどん狭められて無くなってしまうように感じて、本当に不安でした。

今はその土地に、小さな家を再建していますが、相続などのさまざまな事情ですぐには家を建てることができませんでした。その間、一時的に借りようとしたアパートでは、契約書をかわした後なのに、荷物を運びこんでいる最中に入居を断られてしまいました。理由は、「また火事を出されたら困る」「地区で揉めちゃったから」というものでした（本当に地区で揉めたのかどうかは知りませんが、そのようにおっしゃられました）。

家が燃えてしまって住むところがないのに、火事を出した、という理由でアパートが借りられず、家を建てるスペースも狭められてしまったら、一体どこに住めというのでしょう。会う人会う人に「土地はどうするの？まあ、地区の物だから、地区に返すんだな」と言われ、言われ続けて、焼け跡に家を建てることも「地区」に断られかねない恐怖を強く感じました。

「家が燃えてしまって住むところがないのなら、まずはもともと住んでいた場所で生活の再建を考えるのがまっとうな順序ではないのか？という素朴な問いへの答えを探して、私は書店に足を運び、探しまくり、ついに『奪われた居住の権利―阪神大震災と国際人権規約』（熊野勝之編・著）という書籍を見つけました。阪神大震災で被災し、住む場所を奪われたおびただしい数の人たちが、元の地に戻って居住することのできる当然の権利が保障されない事態に陥り、避難所で暮らしていることを理由に就職の内定を取り消される、というような差別があり、仮設住宅では孤独死があり、その中には自殺もあり、ということなどが書いてあり、ごく当たり前の権利―基本的人権を護っていくための壮絶な市民運動の様子が書かれていました。たくさんのマーカーをひきながら読んだその本は、今も私の手元にあります。

この本に寄稿していたのが、梁勝則さんでした。まだリメンバー名古屋も神戸も影も形もなかった、1997年に出版された本です。

本当に長くなってしまいました。まだ梁さんと出会う2003年の夏にまで話が至っていないのですが、続きはまた次号で書けたら書きたいと思います。

梁さんとは、2003年8月の「神戸ひまわりの会自死遺族ケア部会（自死遺族限定の第1回の分かち合いの会）」で出会い、その後、梁さんや神戸の方々の支援を受けて、2003年12月にリメンバー名古屋は立ち上がります。神戸ひまわりの会の自死遺族ケア部会は２つの活動に分かれ、２つのうちの1つが、のちにリメンバー神戸になりました（※このあたり、もう20年も前のことで、ちょっと違っているかもしれません）。

（※ここまでは前号の再掲載です。）

父の死後、なかなか生活を再建できない中、すがる思いで読んだ複数の本の中の一冊が『奪われた居住の権利―阪神大震災と国際人権規約』でした。梁さんがこの本に寄稿していた人だということは、のちに知ることになります。出会いはまったくの偶然で、私が初めて自死遺族の会というものに参加したとき―2003年8月神戸ひまわりの会主催の第１回の自死遺族限定遺族会―、スタッフをしておられたのが梁さんでした。

今から20年前の当時、自死遺族限定の会は、ネット上にほとんど見当たりませんでした。たまたま検索して見つけた神戸の自死遺族の会に、私は名古屋から高速バスにのって参加しに行きました。

神戸ひまわりの会は、がんなどの病気、事故、震災でかけがえのない肉親や友達を失った人に向けて呼びかけられたわかちあいの会だったと思いますが、どんな遺族会でも、死因を限定しなければ自ずと病死遺族の割合が多くなるものなのかもしれません。病死遺族が中心の分かち合いの輪の中で、何も語らない、あるいは、一度きりの参加で二度と来ない遺族がいる、それが、自死の遺族たちであることに、神戸ひまわりの会の皆様は早々と気づいてくださったのでした。病死遺族の方から、「あなたのところは死にたくて死んだのでしょう、うちは、生きたかったのに死んだんですよ」というような言葉をかけられてしまったり、同じ自死遺族となかなか出会えなかったり、自死の遺族は、遺族会に参加してもいたたまれず、かえって傷ついてしまうことが起こりがちなのだということでした。

病死遺族中心の遺族会では居心地の悪い思いをしている遺族が存在する、そうして開いてくれた第１回の自死遺族限定の会に、私は「参考にしてやろう」というような上から目線で参加しましたが、すぐに打ち砕かれました。生まれて初めて、40人あまりの自死遺族を目の当たりに見て圧倒されたのでしょう（それまで、親の自死をひた隠しに生きてきた中で、自分以外の自死遺族に出会うことはありませんでした）、また、分かち合いの会に参加しても結局何もかわらないじゃないか、ということに絶望して（劇的に気持ちが楽になることを期待していたのに、むしろしんどくなった）、分かち合い後、机に突っ伏して動けなくなって泣いているのを、他の遺族の方が主催者に知らせてくれました。別室で、職業が実は精神科医だというスタッフの方が対応してくださり、そばにいた方がいいか居ない方がいいかというようなことをきいてくださり、私は一人で1時間ほど休ませてもらって、名古屋に帰りました。自分は全然大丈夫じゃなかった、ことに気がついて、定期的に、神戸の自死遺族の会に通うことを決めました。

9月の会のときに、ファシリテーターをしてくれたのが梁さんでした。名古屋でも立ち上げたらどうか、会場だけ借りてくれたらあとは簡単ですよ、手伝いますよ、ととても簡単なことのようにおっしゃって、名古屋で遺族会を立ち上げる話がスタートしました。

会を立ち上げるにあたっては、梁さんと毎日のようにチャットで相談していました。たくさんの記録が、パソコンの中にあるのですが、残念なことに自分がかけてしまったパスワードのために開くことができず、記憶も遠のいてしまってあまり詳細には思い出せません。どうやって会を立ち上げていったのか、もし開くことができたら自分でも読んでみたいのになと思いますが…。いろいろやりとりをする中で、本の話もつながりました。私が、学生時代に被差別問題に関する運動系のサークルに入っていたこともあり、日本に存在する差別問題についても、チャットでたくさん語り合いました。

会の立ち上げ方として、梁さんから教えてもらったことの中で、はっきり覚えていることはいくつもあります。

・広報のために取材を受けるにあたっては、必ず「不幸な若いネーチャンががんばっている話」ではなくて、「市民活動のストーリー」として記事を書いてもらうこと。
・参加者もスタッフも対等の関係であること（誰かが何かを教える会ではないこと）。
・そのための「ワークショップ形式」での運営の仕方。
・心理などの専門家も、一（いち）ボランティアスタッフであること。
・この活動は「市民活動」なのだ、ということ。当事者が主体となって行っている「市民活動」なのだ、ということ。

（人助けでもなく、助けてもらうためでもなく、慈善事業でも商売でも政治活動でも宗教活動でも無く、市民活動なのだ、ということは、ぶれずに来たのではないかなあと思います。）

（※次ページに続く）

2003年12月にリメンバー名古屋は立ち上がり、その後およそ2年間は、毎偶数月に梁さんや神戸のスタッフの方々が手伝いに来てくださいました。初回の遺族会は、今考えると無謀なことでしたが、梁さんの発案で、新聞記事によりスタッフと参加者を同時募集しました。午前がスタッフ研修、午後がわかちあいの会、もしかすると2日がかりだったかもしれません。その後、名古屋でもスタッフになってもよいと手を挙げてくださる方が少しずつ増えて現在に至りますが、立ち上げ当初、名古屋のスタッフは私一人でしたから、神戸の方に支えてもらって、現在のリメンバー名古屋は在るのです。リメンバー名古屋は自助グループではありますが、当事者スタッフはその日の心身の調子次第で急に欠席することも多く、立ち上げ当初を継続的に支えてくれたのは、当事者ではない方々、神戸の皆さんでした。

また、会を立ち上げるに際して、いろいろとわかりにくい偏見や扱い、心無い言葉、のようなものが、いくつもいくつもありました。善意からであっても、あるいは、善意からであればこそ、脱ぎ捨て難いネバネバした嫌なものをかぶせられて一人では脱げないときに、梁さんは痛快でした。細かい出来事の詳細は書きませんが、おそらく梁さんご自身が歩んでこられた人生史の中で（本にも書かれていた震災後の市民運動の中でも）、理不尽なものと闘い続けてこられたからこその、梁さん流の対処の仕方でした。私が疲れ切ってしまったときに、「理解してくれない人にわかってもらうことに労力を割くよりも、理解してくれる人を増やしていく方が効率がよいですよ」とおっしゃっていた言葉もよく覚えています。

梁さんの職業が内科のお医者さんであることは知っていましたが、梁さんがあまりそれを感じさせることが無かったので、訃報が載っている新聞記事を見て、訃報が新聞記事になる？はて？と、よく理解できませんでした。多くの方にとって、とても大きな存在だったのだということは、葬儀ではじめて知りました。人生の長い期間、梁さんと活動をともにされてきた方々の弔辞を聴き、「新聞記事を見てお参りにきました」という多くの患者さんの姿を見ました。「あらゆる人生の終末期を支える」というようなことをライフワークとしてなさっておられたことを知り、自死遺族の会の立ち上げと、その運営やサポートも、その大きな流れの中の大切な一部であったのかな、などと、いろいろなことを感じました。

死別を体験したリメンバーの私たちにとって、葬儀には過酷な思い出もあり、参列は心の重いものでもありましたが、出棺後「梁さんに献杯しよう」と誰かが言い出して、居酒屋で少しずつ私たちは楽になっていきました。梁さんはビールがお好きでした。梁さんが立ち上げ当初「新幹線の停まる全ての駅に自死遺族の会を」とおっしゃっていましたが、全国各地でビールが飲みたかっただけなんじゃないですか、とご本人の前でも言ったことがありました。8月11日「偲ぶ会」終了後も、献杯させていただくと思います。リメンバー名古屋はこれからも続いていきます。私も生きています。梁さんのおかげです。心からの感謝を込めて。

リメンバー神戸の参加者のみなさんと、「梁さんを偲ぶ会」を開催します。

とき：2024年8月11日（日） 13:30～16:00
ところ：神戸市立こうべまちづくり会館
６Ｆ会議室１
兵庫県神戸市中央区元町通4-2-14
元町駅（JR・阪神）西口から西へ10分
みなと元町駅（地下鉄海岸線）西1出口から北へ2分
花隈駅（神戸高速）東口から南へ3分
西元町駅（神戸高速）東口から東へ5分
プログラム：
①はじめの挨拶（リメンバー神戸）
②関連団体・オブザーバーより挨拶
③分かち合い １（グループワーク）
梁さんへの思いなど、
自由にお話ください。
休憩（１５分ほど）
④分かち合い ２（全体）
⑤今後のリメンバー神戸について
⑥終わりの挨拶
参加費：無料ですが、よろしければ会場費のカンパをお願いします（300～500円程度）。
参加方法：当日、神戸まちづくり会館６階会議室１にお越しください。受付開始は13：30です。
申し込み：人数を把握したいと思いますので、参加予定の方はメールにてご連絡をお願い致します（ニックネームで可）。
※当日参加も大歓迎です。
申し込み先：
リメンバー名古屋事務局
remember_nagoya@yahoo.co.jp